

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成21(2009)年
2月号
通巻462号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

発行日 平成21年2月23日
発行所 大倭出版局
〒631 0042 奈良市大倭町1の12
電話 (0742)44 0015
印刷 大倭印刷
定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
振替口座 01050 6 67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



法主さん(左端)とトロチエフさん(右から2人目) 神戸市 上野 允士さん撮影(文・5頁)

昭和39(1964)年2月4日 玉緒祭法話より

人間向上としての宗教

法主 矢追 日聖(満52歳)

「ママ」という言葉の意味

今日はまことにお天気がよろしゅうございます。

先月の暮れから、私も世間並みに風邪を引き少し喉を痛めているんで、ちよつと聞きづらいかも知れませんが、御静聴をお願いいたします。

大倭におきましては、玉緒祭として節分にはちよつとしたお祈りをしています。この節分というものは、もう昔から色んな方面でやっておられる行事で、旧暦で年の一番終わりに当たります。過去一年間において、我々人間が犯してきた色々な禍事を抜い清めて、清々しく春を迎えていこうという、変わり目の節になるんです。

それと節分には豆がついているんですが、これは大和言葉では昔から健康を象徴する時に、「ママ」という言葉を使っています。「ママママ」とか、「キママ」とか、「ママ」と言う。「ママ」という言葉は、健康であつて我々がピチピチと動いているような状態を言うんです。言葉には一つの靈魂が働くんですね。それで今日の節分という日にはこの豆を神様にお供えして、豆を中心とした行事がよく行われているんです。福豆として、年男とか、まあ現代ですと有名人がよくこの豆を撒いています。

大倭においても、今日の日を特殊な行事としてやると言うんじゃないくて、これはもう世間並みの事です。

霊界中心のお祭り

いつもみなさんに申し上げているように、大倭の宗教は世間の宗教というものを色々研究して、そうした結果において始めたというのではない。私には別に宗教の師匠もなければ、今日までの既成宗教のどれにも所属した事はありません。霊界から直接私個人に伝えられて来る一つの哲学と言いますが、霊界から来る教えというものから出発しているのが大倭の宗教です。

今日は、私達が過去一年間、「ママ」に生きさせてもらって、今年もまた神の指示される方向へ無事に、息災に歩ましてもらわなければいけないという、一つの変わり目の節となるお祭りでございます。ですから、この祭典も人間中心でなく霊界を中心として動いているんです。

普通は人間中心の行事ですから、今日のような節分のお祭りはどこも華やかにやっているんですが、大倭は逆で、霊界の方が主であって、我々人間界の方が従たる立場であるんです。

今日も大倭の一門の者だけがこうしたお祈りをやっています。内輪の者だけのひっそりした状態ですけれども、霊界の方は人格霊が実に華やかな振る舞いをやっている。お供え物でも言葉霊が通じるのか、綱から「メデータ」という音が出てくる。それで今日も、出雲の方から五尺か六尺位の大きな綱が供えられているんです。

こうした玉緒祭の中心となっておられるのは奇稲田姫命という人格霊です。男の神様達も人格霊ですが、みんな奇稲田姫命の下の方に居並んでいます。現界ではいわゆる年男とかが豆を撒いているんですけれども、霊界では物凄い形相した人が豆を撒いている。そして悪魔退散の言を引くんです。

相撲の時に四隅に空弓からゆみを引くんですけれども、ああいうような行事もやっぱり霊界から出て来ているんだと思うんです。誰かこれを見た人がいたわけですね。

今日もやはり弓を引くような神様もいれば、豆を撒く神様もいます。中には善霊、悪霊の闘争している姿もございますし、これは実に劇的な面白い姿です。

そういう中に、今年の大倭の一年というものの占いも出てくるんです。今年は対外的にかなり忙しくなって来るような、そんな霊界の動きです。

過去世による縁

我々は現界において色々な仕事させてもらっていますけれども、これはもう全部と言ってよいくらい霊の世界からの指図通りに黙々と動いているんですよ。

我々は自分の意思で動いていると思うんですが、その出所は何処から来ているのか。それは霊界から指図されている一つの霊波長を、自分の魂によつてとらえた場合に自分の考えとか意思だということのように感じているだけなんです。そういう事をみんなはよく自覚して欲しい。

それでまあ、今年一年間においても色々な方が大倭に来られると思います。そして、大倭の一門としてここで共同生活している者も、あるいは生活様式が別であっても、また外部からおいでになる方も、みんな今世だけではなくて、前の世、あるいは前の前の世というような過去世からの何かの深い結びがあって、現界においてこうして顔を合わしている。これはもう信じてもらっていいと思います。絶対間違いないんでね。

人間的な何かの縁によつて出会ったり話もした

り、現界においては誰かが介在する縁ではありますけれども、その縁を結ばせるもう一つ深いものがお互いにあるんです。

過去の時代において一緒に仕事していたとか、師匠と弟子の関係であったとか、親子、夫婦、兄弟というような肉親の関係であったとか、あるいはまた仇の関係であったとか、良きにつけ悪きにつけ、何かの縁によつて結ばれた者が現界において、お互いに顔突き合わすんです。

縁が深い浅いの度合いというものは全部が平等とは言えませんが、みんな不思議な縁によつてこうして集まって来ている。私が大倭の霊界から代表して、現界に生まれてまいりましたので、過去において色々な縁のある方が、何かの動機によつて大倭へ寄つて来られる。

私は大倭においてになつて居る方、あるいはまた自分が心安く色々なお付き合いをしている方々に対してはですね、普通の人とは別な意味においての親しみを持つて居るんです。観念的にそう思うんじやなくて、霊界の事が分かっていますから私自身が信じられるんですね。私はこれだけが非常に恵まれていると喜んで居るんです。

そういうような私ですから、今日までの過去を考えてみますと、かなり悪質な人に利用もされました。また背負投げをくらわされた時もございます。余りにも相手を信用しすぎるから、そういうような結果になったのですけれども、それは過去の世において何か犯して来た一つの罪だったんだと思うんです。その罪を現世において取り除いてもらった、一つ罪はるぼろが出来た。私個人の過去から持つて来た自分の罪というものを、その人達によつて取つてくれて、一つ一つ軽くしてくれているんだという心境なんです。

今世に生まれて来たという事は、やはりその過

去世の延長であるんだから、たとえ一步でも人間的に向上して行くという事が、我々の大事な役目であるんです。

人間向上という大事な役目

現在の常識とか道徳観から見てよろしくない行為があった場合には、やはりこれを是正して、たとえこの一寸でも一尺でも人間的に向上して行くとする事です。

また大倭全体という大きな立場から見た場合には社会を救済していかなければならない。非常に口はばつたい言い方も知れませんが、精神的な救済なんです。そういう救済が出来るような個人個人の魂の持主が集まって、一つの大きな力となり対社会的に手を伸ばしていかなければならない。

如何なる大きな仕事をやるにしても、個人の力がその出発になるんですから、まず個人個人が人間的な向上を図っていく。そして自分自身を治める十二分の能力が出た上においてはじめて対外的に、いわゆる救いの手を伸ばして行くというのが順序なんです。大倭というものは、そうした事の母胎になっているんですから、大倭へおいでになる方は宗教の教理をよく理解するとか、教化指導が上手くなるとかよりも、先ず自分というものを先に鍛えてほしい。人間的に向上を図ってもらおうという事が先決問題なんです。

大倭には別に難しい宗教的な教えとか教理というものはございません。文字で言い表す場合においては、過去にはキリストも釈迦もあり、また沢山の聖人君子が人類の中におられるんですから、大倭の教えは、斯く斯く云々であると美辞麗句を今更言い並べても何にもならないんです。

要はですね、神の心というものの、霊界にある神意というものを現界に伸ばしていく。そして、我々人類も霊界も苦しみの少ない、本当に安心して暮らせるような社会にして行くという事が究極の目的なんです。

仏教では、「娑婆即寂光土」という言葉で表しているんです。この娑婆世界というものを、光のあるような寂光土の世界の中にして行かなければならないというのが仏教の理想世界だと思っんです。あるいはまた弥勒の浄土というような言葉でも表現しています。

地上は天国のような所にしなきゃいけないという事は、過去に幾多の人が言っているんです。今更、大倭がそんな事を言うたところで何も始まらない。けれども、神様の心というものは、そういうようなところにあるんですね。

理想の社会をこの世に実現させようとするならば、神様の指示通りに我々人間がやって行かなければいけません。人間一人一人がその神意を奉戴して、真面目に仕事して行けるような自分というものを作って行くという事、これが先決問題だろと思うんです。

腹の立たない、人に好かれる人間

大倭には昨年、人間の霊的能力というものを発揮していきこうというグループも現れまして、月に一回程、ここに集まって会合も開いています。精神を統一して自分の持つて生まれて来た能力というものを発揮して行く。また霊界も正しく知りたいたいという動きもあります。

けれどもその前に、自分の精神の建て直しというか、自分の靈魂というものをもういっぺん叩き直すという事が先決問題だろうと思えます。生ま

れながらの個性というものもございまして、焼き直しは中々難しい。難しいけれども、それを人間的な修養によつて、神様と一つの誓いを立てるとか約束をするとかいうような方法でもって、叩き直さなきゃいけない。

その目標というのは、先ず腹の立たない人間になるという事なんです。如何なる場合があつても感情に走らない。心の中で腹の立ってないような自分を先ず作り上げて行く。そういう目標に向かつて、自分が日々の生活を通して修行していくという事が、霊能発揮というような事をとやかく言うよりも大事な事です。そういう基礎が出来ていなければ、靈魂から出てきた霊能というものはその役には立たないんです。先ず自分を作る事です。

それと同時にどんな人にも好かれるような自分になるという事です。

神様に手を合わせ「奈母太天腹」と唱える事はよろしい、祝詞あげるのもよろしい。あるいは「病氣治してくれ」と頼むのもまあよろしい。けれど、それよりも人間を改造して行くようにすることです。

どんな人にも好かれるような人間にならせて欲しいという事は、自分からなろうと努めるという約束なんです。そういうような意味において、神様にお祈りする事は、即自分が自分自身の魂に誓うという事なんです。

例えば神様に「病氣良うして下さい」と頼んだつて、神様が出てきて病氣を治してくれるんじゃない。神様というのは鏡のようなもんですから、「病氣を治して下さい」と頼んだ場合には、その声は神様に一旦突き当って、反動的に自分の所に戻つて来る。そうすると自分が自分の心に「助けてくれ」と頼んでいる。自分で病氣が治るよう

して行くという事なんです。

世の中というものは、全て鏡や山彦の原理に出来ているんです。神様に對して誓いを立てるという事も、それは我が心に誓いを立てるという事なんです。だから頼みつばなし、言いつばなしじゃない。自分から出発すれば必ず自分に戻って来るんです。神様に拜んでも自分に戻って来る。

腹の立たない、人に好かれるような人間にならして下さいと神様にお祈りをするという事は、自分自身が自覚して、そういうような人間になるように努めますという約束です。

「救い」という言葉の意味

宗教哲学のような事で頭をひねくりまわさなくても、朝に目を開き晩に寝るまでの日日の生活の中において、どういような心構えで人に接して行かなければいけないかと考え努力するだけで、かなり修行ができると思うんです。

それによって自分が出来上がってくれば、自分の周囲の人達が必ずそれに似かよった人に変化してくるはずなんです。これは自分の魂から出て来るいわゆる霊波長というものが、自分の周囲にいる人の魂の中に食い込んで行くからで、そうすると相手にもこれがうつって行くんです。

仏教では須弥山というような例えもあるんですね。お釈迦さんが須弥山の中で法を説かれた時に、その山に近づいて来るものは鳥であっても、金色に等しいような色に染まってくるというような例えで表現されています。仏教にはそういった味のある言葉が多いんです。

それと同じで、自分一人が向上して行けば、自分の周囲の者もその感化の力で段々と浄化して行く。これが宗教で言う本当の「救い」なんです。

活動期に入る大倭

大倭はまだ世間に知られておりませんし、未だにこういう状態ですけれども、神意に沿った動き方を終戦と同時に今日まで歩み続けて来ているんです。いよいよ今年あるいは来年頃から、何とか芽を吹き出して活動期に入るらしいです。霊界はそうおっしゃっている。昭和四十年頃からぼつぼつ活動しなければならぬような時期になって来ている。

そうなつてまいりますと、現代の宗教の行き方というものが神意に叶っていないければ、大倭が神意に叶った宗教として、我々もかなり腹を括つて世の中に頭を持ち上げて行く、今年はその準備の時だと思つて下さい。

そうした時にはやはり雨も風もあり、あるいはまた嵐も吹くかも知れません。如何なる場合にもこれを耐え忍んで行くだけの心構えというものが必要であると思つて下さい。そういう事は覚悟しておけと言つような霊界の方からの注意が二、三年前から盛んにあるんです。

今年辰年ですが、竜が天に上がる時には大きな嵐を起こします。大倭というものがここで動く時には、ちょうど竜が天に昇るような状況になりますので、社会は渦を巻き、大倭があるが為に宗教界において混乱の時期が到来するかも知れません。そういうような事があつたとしても、これはやはり建設の前の破壊でもありますし、嵐の次には静けさというものが来るんですから。

私たちは加美のまにまに、神意に沿って何にも考えないで進んで行きたいと思つています。それに対してみなさん方も、大倭としての恥じない人間になろうという気持ちを持って、今年一年しつ

かりと精神的な訓練をして準備してほしいと思います。(文責・編集部)

こぼれずみ 北海道小樽市 守谷明宏

9・11同時多発テロに對するアメリカ議会での武力行使容認決議に、一人だけ反対票を投じた女性議員がいたのはご存知でしょうか。その人は、カルフォルニア州選出の民主党議員のバーバラ・リーという人で、「誰かが自制を求めなければならぬ」と述べ、反対票を投じました。

私はその事を2001年9月16日付の「北海道新聞」に掲載された記事で知りましたが、その記事の中で1941年真珠湾攻撃に對しての宣戦布告決議の際にも、たった一人だけ反対票を投じた女性議員がいたことを知りました。その女性議員の名前は書かれていませんでしたが、昨年11月古本屋でその人のことを書いた本、大蔵雄之助著『一票の反対 ジャネット・ランキンの生涯』(文芸春秋1989年刊)を見つけて購入しました。ジャネット・ランキンは、国政レベルで選出された世界で初めての女性議員であることもこの本で知りました。

再選されないだろうと心配して声を掛けた議員に對して、「再選なんて気にしていないわ。気にしているのは、これから50年後にみんながなんて言うかということよ」と言い返しました。この本が日本で刊行されたたつた2年後に、そしてジャネット・ランキンが反対票を投じた60年後に、バーバラ・リーが一票の反対票を投じたという、まったく同じ状況になったということ、ジャネットはどつ思つてしょうか。

彼女の人生を描いた映画制作が完成近いと聞きますが、公開されたら是非観たいと思つています。

あじさいアルバム

表紙写真について

たまたま通りかかって西齋庭の所で撮影したものだそうだが、撮影日不明。上野さんは昭和49(1974)年10月から半年ほど紫陽花邑で生活しているのその頃か? とすれば法主さんは63、64歳。同行の男女はダンサーだという。

コンスタンチン・トロチエフさんについては、先月号「大倭あちらこちら」中にもあるように交流の家建設運動の発端になった人だ。革命を逃れて来た白系ロシア人の子供として1928年神戸市生まれ。少年の頃発病、当時の園長のはからいで病気ではなかった祖母も一緒に栗生楽泉園で暮らす。1967年無国籍から日本国籍取得へ。2004年ボストンの修道院に移住して、2006年病没、享年77歳。日本語による詩集『ぼくのロシア』『うたのあしあと』がある。(編集部)

渦居さん



左から3人目が渦居さん。裏に「あじさいむらで、昭和40年3月1日(3回生)」とメモがある。入った大学にたまたま、特にハンセン病で失明した人のために活動しようという点訳クラブというのがあった。何かで面識のあった渦居さん

から「遊びにおいで」と電話があり、FIWCを床しく思う気持ちもあって部員3人で訪ねた。私(右から2人目)はその春休みと夏休みにワイクキャンプにも参加、卒業1年後には邑の居候(いごう)になってしまった。右端は大倭安宿苑の今井富蔵苑長、白衣の人は看護婦の矢追輪瑞美さん。
『すさのお』紙に「昭和44年8月12日 大倭に入門して満四年になる渦居貞夫さん(愛称オッサン)が多磨全生園に入園しました」と書いている。平成12年3月31日帰園。

丸さん



写真提供…中島 健

敬称略で左から、(前側)青山日元、マルチン・エン、手取屋ふみ、矢追権義(後側)矢追房子、石丸慶三、杉本順一、沢口道代、渦居貞夫、岡田美登利、吉沢光夫、中島健。どうやら場所は今の印刷工場2階に出来て間もない独身寮で、その住人や独身者の食堂のあった双葉館周

辺の人が多い。マレーシアのマルチンさんの送別記念写真か? 昭和40年代の始めと思われる。マルチンさんは5ヶ月ほど杉本さんの部屋で寝起きしていた。
丸さんこと石丸慶三さんは、大阪や東京へ働きに行ったり出入りが多かったせいか、記録が見付けにくい。どれくらい邑で暮らし、愛生園に落ち着くことになったのは何時だったのか。(編集部)

景山さん



杉本 順一
昭和43年6月6日、大阪天保山弁天埠頭から沖之島丸で奄美大島の国立療養所和光園に向かう景山孝義さん(右)と大阪府職員のと田さん(真ん中)、付き添いの

杉本(左)。

縁あつて景山さんはこの年1月3日、叔父さんとともに来邑され5ヶ月あまりを大倭紫陽花邑人として暮らしていましたが、和光園の大西園長さんの勤めもあつて奄美大島に行かれる事になった折のひとコマです。写真には出ていませんが大府職員の安東女史も同行されました。

この日、1台は柴地則之さん運転の車に法主さん・鈴木かあさん・景山さん・杉本が乗り、もう1台青山日元さんが運転する軽トラックには奄美大島に送るため荷作りされた景山さんの洗濯機が乗せられていました。埠頭では、その皆が船を見送ってくれていました。

法主さんは8ミリカメラと一眼レフの2台を持って記録されていて、鈴木かあさんもカメラマン助手を勤めておられました。この写真はかあさんの撮影です。8ミリフィルムの方もありましたので、何時の日かDVDにしておきます。

逍遥遊を求めて……

あれから十四年の巻

李 章根

一月十二日、関西学院会館で開かれた「09年関西学院大学災害復興制度研究所フォーラム」に参加した。阪神・淡路大震災の時、共に助け合った仲間達がその後も地道に国内外の被災地で支援活動を続け、その日の壇上にも上がっていた。

あれから十四年。当時二十五歳。神戸市兵庫区氷室町のアパートの中は滅茶苦茶になっていた。ビンの中に入れられおもいきりシェイクされたようなすさまじい揺れの中、いつの間にか立ち上がった壁にしがみついていた。外は真っ暗であり揺れが収まってからも何が起こったのか分からず呆然と立ち尽くしていた。前の晩は気持ちの悪い真つ赤な満月だったのを思い出す。

しばらくして廊下に出、隣の兄さんと声を掛け合っている間に街中で火が上がり始めた。その辺りにいつもお世話になっている老夫婦が住まいしている、助けに行かなければと走り出した。小さな商店街の一角にある建具屋に辿り着く。シャッターをこじ開けて叫ぶ、「おじいさん大丈夫ー」。ゆっくりと二階から降りてこられた。もう後ろから火の手が上がっている、「早く!」。おじいさんは冷静なのか困惑しているのか、「わしのスリッパはどこや」を繰り返した。その後、その周辺は焼け野原になった。泣き叫ぶ人、自分の家が燃えるのを淡々と見ておられるような人、様々だった。隣の兄さんは元やくざ。その道から足を洗ってとび職の仕事に就いていた。親方に休みも与えてもらえず、連日ねじれた針金を真っ直ぐにする仕事をやらされたらしい。それまで乱れきった生活

をしていた身にはきつかったが、そのお陰で立ち直れたと酒をご馳走してくれては話してくれた事がある。

建具屋を生業としていたおじいさんは、仏像を彫り続けていた。息子がある時から障害者になつてしまい、縁あって滝行の道に入り息子の治癒を祈り続けてこられた。素朴な方だった。

朝早くに、アパートの近くにある「雪の御所公園」の大きなクスノキの前で気功をしていた時、ふと目を開けると、杖を突いた坊主頭のおじいさんが立っていらした。その時が御縁で、時々お伺いして話をした。決まっておばあさんが、思いつきり甘いコーヒーかオロナミンCを出してくださいました事が懐かしい。

そう言えば僕はお年寄りにいろんな事を教わり助けられた。二十歳の頃に出会った石ころばあちゃん。戦中は教師であり、生徒を戦争に送つてしまった反省から、母の会を始め多彩な人の集まる場を作っておられた。お陰で僕もたくさんの方と知り合えた。その後、この方のご子息に針灸を学ぶ事となる。

師は、大倭とご縁のある京大の飯沼二郎さんのお弟子さんでキリスト者だった。僕が針灸の国家資格を取得したら、「在日コリアンが多く住む神戸市長田区に入つて仕事をしようか、三世の君が行けば喜んでくれると思う。捨石になつてもええやんか、僕も手伝つよ」と言われた事がある。民族意識の薄い（今もそうだが）僕は師の言葉に感動しつつも、定まらぬ先行きを模索していた。漢方の道に入る前に老人福祉の仕事にされていた師は、大倭の事を二十年以上も前から知っていた。「ハンセン病の人と一緒に風呂に入るらしいな」と。初めて師を大倭にお連れした時、法主さんと出会われて、「いいお顔されてるな」

が第一声だった。師は鈴月かあさんと仲良くなり、何かの折に冗談で、「罰当たりまつせ」と言つては笑い合つた後で僕に、「教祖の奥さんにこんな事言えるつてももしろいな」と自分で言つておいて感心していた。

九十年代は「失われた十年」と言われている。何が失われたのか。震災、オウム真理教事件、ブル崩壊……。何もかもが空洞化していくのを実感できた。その時代が人々に影響を与えた事を表した言葉に「透明な存在」があつたように思う。その頃からか、若い子達が働くコンビニやセルフサービスの喫茶店で、中年のおじいさんが働き出したのには驚いた。また店でお釣りを渡すのにべつたりと店員が手を添えるようになった。何かが変わり始めていた。

僕が直接聞いた限りでは、阪神淡路大震災の事を法主さんは「大襖やな」と言われた。そして、親指と人差し指で円をつくりお金の事を示された。分からなかった。それは、神戸は戦後全国でも最も積極的に大規模な都市整備を進め、山を崩し海を埋め立ててきた所（ポートアイランド、六甲アイランド等）であり、その事も含めて法主さんは言われたのだろうか。

震災の体験では、具体的にリアルに人々が関わり合つた事で相互扶助の純化された状態を体験できた。晩年法主さんに、「真ん中に形のないものを置きや」と言われた事がある。「ここは大倭の神さんやけどな」と続けられた。この言葉が僕のテーマとなった。人間の役割として、自分の中の自然を世話し保ち続ける事なのかもしれないと思う。その事によつて自分も生かされる。それはお互いにとつてもそうなのだろう。

では具体的には?となれば、しっかりと生活するしかありまへん。

再録

昭和59年3月号『おおやまと』より(一部要約)

大倭会への私の希望

大倭会4月8日発足を前に、昭和59年1月23日月次祭法話、

法主 矢追 日聖(満72歳)

心と心の結びつき

一番最初は教宮、まあ教会ですけど、そこを中心にして地域の人が集まってましたが、割合「じやこじやして、あんまりよくないような場合もあったし、じやあもつ統一しようやないかということになってきて、「大倭申孝会」というような会ができました。

私の本当の意志は、大倭教というものの存在を信仰している人であろうとなかろうと関係なしに、とにかく世の中和平にいこうという平和思想の人たちの横の結びとしていきたいということです。だから大倭教の信者だけというようなことを考えてたら、それは違うんです。私は信者という言葉もいやなから。

そんな意味で、心と心がお互いに共通できる人たちの会にしたいなと思って、大倭申孝会は解散して、今度は「すさのお会」という会をつくったんです。大倭教に対して信仰する人もせん人も、大倭を軸にしてみんなが人間的につながるような会にしようということなんです。

例えば、私はここに福祉の施設を三つ(現在は六事業所)持っております。これは社会福祉法人でやっておるんですけど、大倭の宗教はもう分からん、そんなものはどうでもええけれども、大倭の社会福祉の仕事は非常に結構やから、それに対して協力するということやね、ただ信仰して御利益もらうような、そういう信者の団体やなくして、一般的な人でも入ってくれるような会にしたいなというのが私の発想であつたんです。

すさのお会ももう十五年以上になると思いますが、専属でやってくれる人がおられないんで森下(新蔵)さんにほとんど負担をかけてきたんです。けれども動きがまあ鈍いし、何か知らんけど、すさのお会に寄ってくる人は、大倭の神さんは有難いと手を合わせて来るような人ばかりのような気がするんです。私自身にしたら、それは嫌いなんでね。

そんなもんやなしに、広い意味の社会福祉というものを中心として、お互いに助けたり助けたりしていきような会にしたいんです。

社会福祉の根本は、これはやっぱり宗教です。大倭の宗教が源流であつて、その宗教の心が社会福祉の仕事育てていくんです。そんな意味において新しい会ができないかなあと、これは気持が変わつたんやない、当初からそれが私の本心です。

今までですと、例えば機関紙を毎月作つたり名簿を整理したり、それによって社会の人と大倭と何かの形でいつも交流していくという、その世話ができないんですよ。みんな家庭持ってはる、仕事持

大倭会へのお誘い

● 大倭会 年会費 1万円
郵便振替 : 01060-6-31705

● 『おおやまと』の購読だけを希望される場合は3千円
郵便振替 : 01050-6-67002

平成21年 大倭会行事のお知らせ

文化行事

場所・時間・交通等の詳細については各前月までの『おおやまと』でお知らせします。

- 第301回 4月19日(日) / 行先未定。ご提案歓迎します。(3月6日までに)
- 第302回 5月17日(日) / 清荒神清澄寺と手塚治虫記念館(宝塚)
- 第303回 6月21日(日) / 大阪府立弥生文化博物館(和泉市)
- 第304回 10月25日(日)・26日(月) / 一泊旅行(行先未定)

文化講演会

11月8日 詳細未定

ってはる、その人たちに押しつけるのは無理やなあという遠慮もあつたし、なかなかそういう動きが出てこないんです。だから、ちよとど石垣(雅設)さんが野草社という出版社を持って大倭に来てくれたのが、ひとつの動機になるんです。石垣さんなら専門家です。そうすれば片手間やないから、荷物は重いけど、この際、すさのお会と話し合いをしてみても、例えば「大倭会」というような、これは宗教的な匂いを抜いてもかまわんと思うのですが、大倭を中心としたひとつのグループをつくっていくと、これからそういう動きにしていきたいと、それが私の希望です。(平成元年二月三日、石垣さんは紫陽花邑を離れましたが、『おおやまと』は野草社の編集スタイルを踏襲してボチボチと何とか現在に至っています・編集部)

AWTC日誌



奈紀佐さん(青山日元さんの孫)

1月11日 榎会。友人に「何となく気がいい所」と誘われたという大阪市の鶴飼麻由美さんと、甲野善紀氏の本を読んで「ご利益信仰でないのが気に入って」という名張市の服部洋平さんが、初参加されました。

1月12日 大とんどは、強風のため中止されました。

1月13日 午後8時から教務本庁において今年最初の本紙『おおやまと』編集会議。毎月2回、発行前と後にやっています。

1月15日 大倭神宮月次祭。

1月16日 午前10時半より大倭大本宮拝殿において平成21年大倭殖産株式会社安全祈願祭が執り行われました。

が大倭病院の看護師として勤めることに成りました。

1月18日 午前9時から西斎庭で改めて「大とんど」。拝殿横の大きな枯れ木を軸に、お正月の松飾や取り替えられたしめ縄などが火にあげられました。かたわらで有志の皆さんが持ち寄って下さった品々を美味しく頂いて12時過ぎに終えました。

夜、交流の家でFIWC定例委員会。

1月22日 午後、東京の増田真理さんと松本直之さんが来邑。

1月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は昭和38年12月23日(法主さん満52歳)降誕祭法話をお聞きしました。

1月24日 午後5時から奈良パークホテルで、紫陽花色各事業の代表者の交流会である邑交会の新年会が開かれました。

1月31日 お年玉の使い道で揺れていた昇ちゃん、DVDの再生機と決め、この日、青山法義さんと一緒に買いに行ってきました。「うれしい！」がなるべく長続きしますように。

2月3日 玉緒祭。この日は昭和39年2月4日の玉緒祭法話をお聞きしました。

2月6日 大倭神宮月次祭。

夜、大倭会館で紫陽花色内の連絡のための会である邑倭の会が開かれました。

2月8日 榎会。「腹を立てない人間になる」にはどうすれば

良いかというテーマを中心に話し合われました。

2月9日 午後2時から法主奥津城において法主帰幽祭が行われました(写真左上)。お陰さまで明るく温かい祭典でした。祭典後は拝殿において法主さん満80歳の降誕祭の記録を見させて頂きました。

大倭安宿宛では

(菅原園)

2月2日 握りやちらし、巻き寿司などのご馳走で昼食の後、豆まきを行いました。

(須加宮寮)

1月29日 職員のみ二人羽織りや住苑者のカラオケ大会等で演芸会を行いました。

訓練を実施しました。投句箱より、「三人の曾孫を膝に屠蘇の膳」「梅の香を纏いて戻る松葉杖」

俳句の風物

上田森彦(98歳)

世に遠きことこのこと
しや鶴鶴 加藤楸邨
風もなく暖かい午後
の日さし、うとうとし、チョツチョツと鳴くのに気付くと、庭の茂みに鶴鶴が一羽、小鳥の国に

お嘶のひとりが眠うなっている様。

森彦



東方碑前の金柑 齋藤正宏さん写

ATM i C

* 月次祭(大倭神宮)
3月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四八三回榎会
3月8日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

* 月次祭(大倭神宮)
3月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大本宮)
3月23日(月) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

編集後記

昨年未より心新たな気持ちで新たな仕事をしています。それは私自身、生きている間に人の役に立てればと願った事と、27年前に逝った愛娘を思っている事もあります。大変な仕事ですが、今後も色々な人にお世話になりながら、健康で定年まで勤められればと思っています。皆さん、よろしくお願ひします！(千)

(長曾根寮)

1月11日 新年の集い。バイキング形式の会食、職員やご利用者の出し物で盛り上がりました。矢追理事長も出席。

(茂毛路園)

1月15日 各ユニットで1月の誕生会。「ピアノで歌おう」で毛歌でお祝いしました。

(八重垣園)

1月28日 夜間想定防災避難



広島県大崎上島町 中本 好子

今年もお世話になりました。邑の皆さんにみかんをと思っていたら、私が買いに行く前に夫が買ってきてくれました(そんな話はしていません)。嬉しいタイミングでした。

『おおやまと』12月号の中で、「氣比神宮」へ持参するのは、お茶とおにぎり、そしてワイン！ 特別に用意するというより、自分が用意できる物で、気持ちというのから接する...。心が先、そう思っています。つつい、特別に準備しなければ！と思いがちでした。紙面からしっかりと伝えて頂き、私の心にも刻みましました。ありがとうございました。

H 20・12・29